

1. 組織改正の内容と主旨

1) 本社

企画室企画部に「経営計画チーム」「事業戦略チーム」「経営政策チーム」を新設する。また、ネットワーク戦略部に「事業計画チーム」「ダイヤ編成チーム」を新設する。

LCC共同事業準備室を廃止する。

IT推進室企画推進部に「企画・業務チーム」「情報活用推進チーム」を新設する。また、開発推進部に「基盤企画チーム」「国内旅客チーム」「国際旅客チーム」「運航・貨物・整備チーム」を新設する。開発推進部のC2サポートセンターを企画推進部へ移管する。

グループ総合安全推進室グループ安全推進部に「企画チーム」「教育・啓発チーム」「安全管理マネジメントチーム」を新設する。また、グループ安全監査部に「安全監査チーム」を新設する。

総務部に「総務チーム」「株式チーム」を新設する。

勤労部の成田健康管理センターを「成田グループ健康管理センター」へ改称する。

ビジネスサポート推進部に「給与チーム」「海外給与・厚生チーム」を新設する。

、～、の本社の部室については、新たにチーム制を導入し、チーム毎の役割・責任を明確化し、組織体制の強化を図る。

については、LCC新会社設立に伴い、準備室を発展的に解消する。

については、グループ社からの健康管理業務の受託開始に伴い、改称する。

2) 営業推進本部

北見網走支店を廃止する。

地域代表機能の札幌支店への移管に伴い、廃止する。

3) 貨物本部

レベニューマネジメント部の計画チーム、販売統括チームを「販売計画チーム」「イールドマネジメントチーム」に改編する。

収益最大化に向け、販売計画およびイールドマネジメント機能の向上を目的としたチーム改編を行い、販売力の強化を図る。

4) オペレーション統括本部

オペレーションマネジメントセンター品質サポート部の機能を、業務部・オペレーションサポート部に移管し、品質サポート部を廃止する。業務部に「監査チーム」を新設し、品質サポート部監査チームの機能を移管する。また、オペレーションサポート部に「品質推進チーム」を新設し、品質サポート部企画チームの機能を移管する。

安全・経営監査、AQP推進機能について、管下グループ会社への経営管理機能との相乗効果の発揮、効率化を目指し、業務部に移管する。また、生産本部間、ならびに部門内の横断的品質企画機能をオペレーションサポート部に集約し、より機動的な課題解決体制を構築する。

オペレーション戦略部に、業務部企画チームより総代理店・提携航空会社契約機能を移管する。また、空港関連政策機能を調査室、空港整備機能をオペレーションサポート部企画チーム、管制政策機能をオペレーションマネジメント部業務チームへ移管の上、「受委託事業部」に改称する。

外航受委託に関わる戦略立案機能と、総代理店・提携航空会社の契約関連機能を集約し、受委託事業推進体制の強化を図る。また、空港関連政策機能、空港整備機能、管制政策機能について機能の最適化を図るべく、各部へ移管する。

= **大阪空港支店** =

- 整備部内の業務グループ・整備グループを廃止する。
- 伊丹地区における整備業務のTAC社一元化の為、廃止する。

= **関西空港支店** =

- 整備部内の業務グループ・整備グループを廃止する。
- 関西地区における整備サポート業務の更なる効率化の為、廃止する。

5)客室本部

グループ品質推進部業務チームを「安全規定チーム」、「グローバル推進チーム」の二チーム体制とする。また、「品質サポートチーム」を新設し、サービス企画チームの品質サポート機能を移管する。

安全・規定運用機能と、グローバル基準に基づく客室規定の企画調整・海外リソース人材育成機能を分け、各機能の強化を図る。また、機内サービス品質の運用点検・分析・人材育成機能の強化を図る。

グループC Aアカデミーの訓練企画チームを「セーフティーチーム」、「サービスマネジメントチーム」の二チーム体制とする。

現行の訓練教育機能を、客室乗務員資格・機種資格等の資格取得訓練系と、その他の主客室乗務員資格・サービス資格・マネジメント教育系に分け、各機能の強化を図る。

客室乗務センターを廃止し、「客室業務部」「客室乗務一部」「客室乗務二部」へ改編する。客室業務部に「品質サポート課」「乗務サポート課」、客室乗務一部に「大阪乗務課、乗務第一課～第三課」、乗務二部に「乗務第四課～第七課」を設置する。

本部、関連部署等との意思決定の迅速化、ならびに一体的運用強化による機能向上の為、客室乗務センターを廃止し、フラットな組織体制を構築する。

6)運航本部

グループフライトオペレーション安全推進室の安全業務チームを「安全推進チーム」に統合する。

安全推進業務に関わる組織のスリム化・機能強化の為、統合を行う。

グループフライトオペレーション安全推進室のF O Q Aチームを「F D Aチーム」に改称する。

現行のF O Q Aに加え、運航の傾向把握など、安全運航推進に関する広範な飛行データ解析も含めた業務領域とする。(F D A : Flight Data Analysis)

フライトオペレーション訓練室の航空英語サポートセンターを、グループ運営推進室に移管する。

航空英語に関わるサポート体制の強化を図る。

フライトオペレーションセンターB 7 4 7 - 4 0 0部の第四課を廃止する。

組織人員数の変化に伴う組織の適正化の為、三課体制とする。

フライトオペレーションセンターに「B 7 8 7部」を新設する。また、「業務推進課」「第一課」「第二課」を新設する。

B 7 8 7運航体制構築の為、新設する。

7 整備本部

技術部に「整備方式チーム」を新設する。

連続式耐空証明を維持すべく、機体製造メーカー推奨の最新整備プログラムへの対応力強化、ならびに自社整備プログラムの効率的な維持管理の為、一元化を図る。

品質推進室品質保証部に「業務監理チーム」を新設する。

整備業務に関わる資格管理および連続式耐空証明に関わる監視業務を一元化する。

= 機体メンテナンスセンター =

TEAM ドック生産業務部を「TEAM ドック生産業務室」とし、生産管理課・生産技術課・成田TEAMを「生産管理部」「生産技術部」「成田生産業務チーム」へ改編する。生産管理部に「生産管理課」「委託管理課」「施設設備課」を、生産技術部に「生産技術課」「作業基準課」を新設する。業務推進室の施設設備管理機能を生産管理部施設設備課へ移管する。また、品質管理室の品質管理グループを廃止し、委託管理グループを生産管理部委託管理課へ移管する。

生産計画管理業務、カテゴリーオペレーション、ならびに海外整備委託管理に関わる機能整理を行い、機材品質の向上、委託管理機能の強化を図る。また、施設設備機能と生産業務機能の一体化により、より確実かつタイムリーな現業サポート体制を構築する。

機体整備部に「ドックサポート課」を新設する。

ドックサポート体制における責任と組織体制を明確化する。

= ラインメンテナンスセンター =

TEAM MOC室の業務グループ、OPSグループ、生産グループ、技術グループを「業務チーム」「OPSチーム」「生産チーム」「技術チーム」に改称する。また、業務推進室の総務グループ、計画グループを「総務チーム」「計画チーム」に改称する。

本部内での名称統一の為、改称する。

TEAM MOC室に「PROP OPSチーム」を新設する。

ANAウイングス社整備管理業務のANA一元化に伴い、PROPオペレーションサポート・生産・技術機能をMOC室へ移管し、PROPオペレーションサポート機能については、チームとして新設する。

= 機装センター =

TEAM装備品生産業務部に「修理管理課」に新設する。

外注費に対するコスト管理強化と国内・海外修理委託先に対する修理管理の強化を図る。

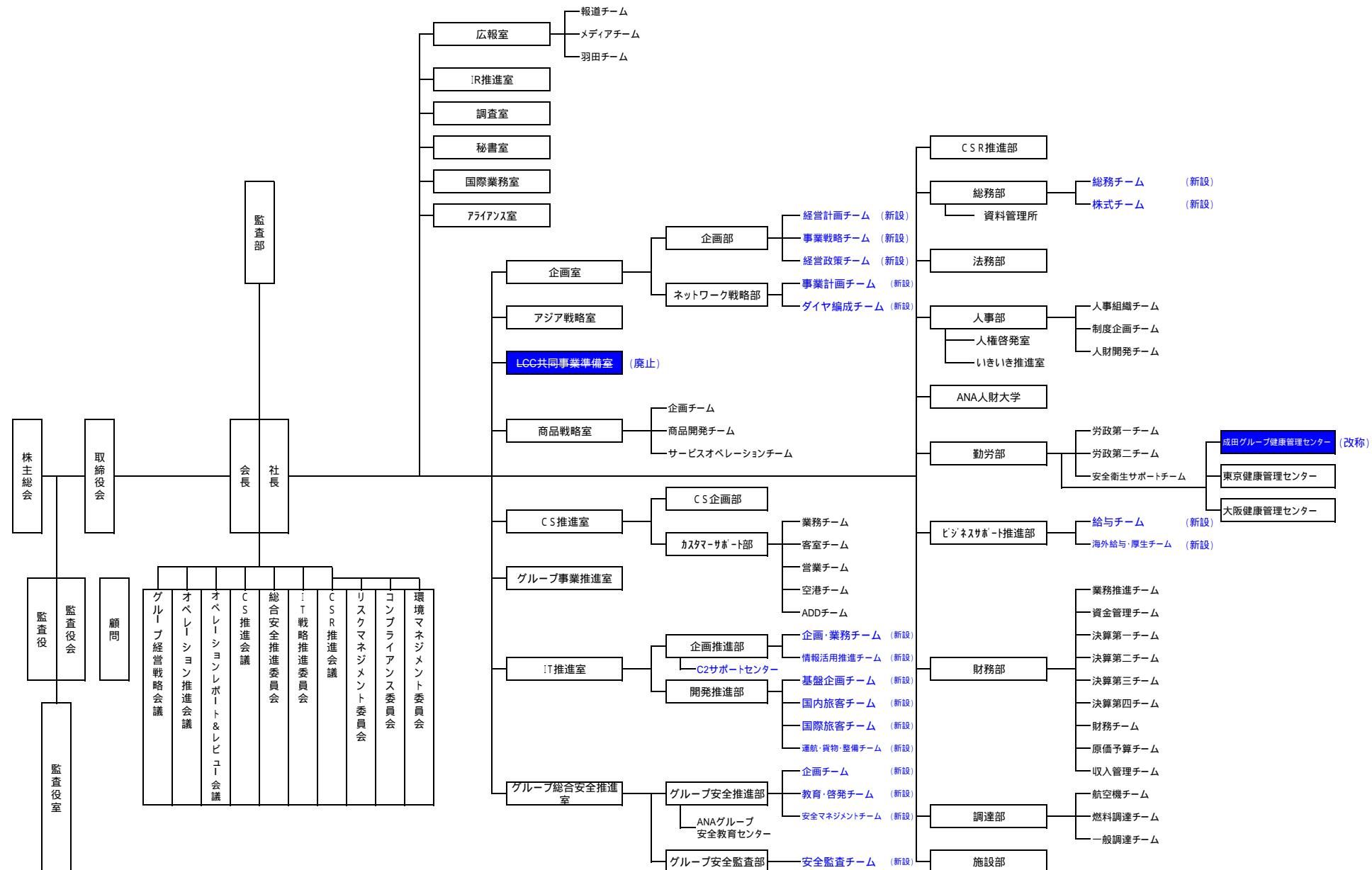
2. 発令日

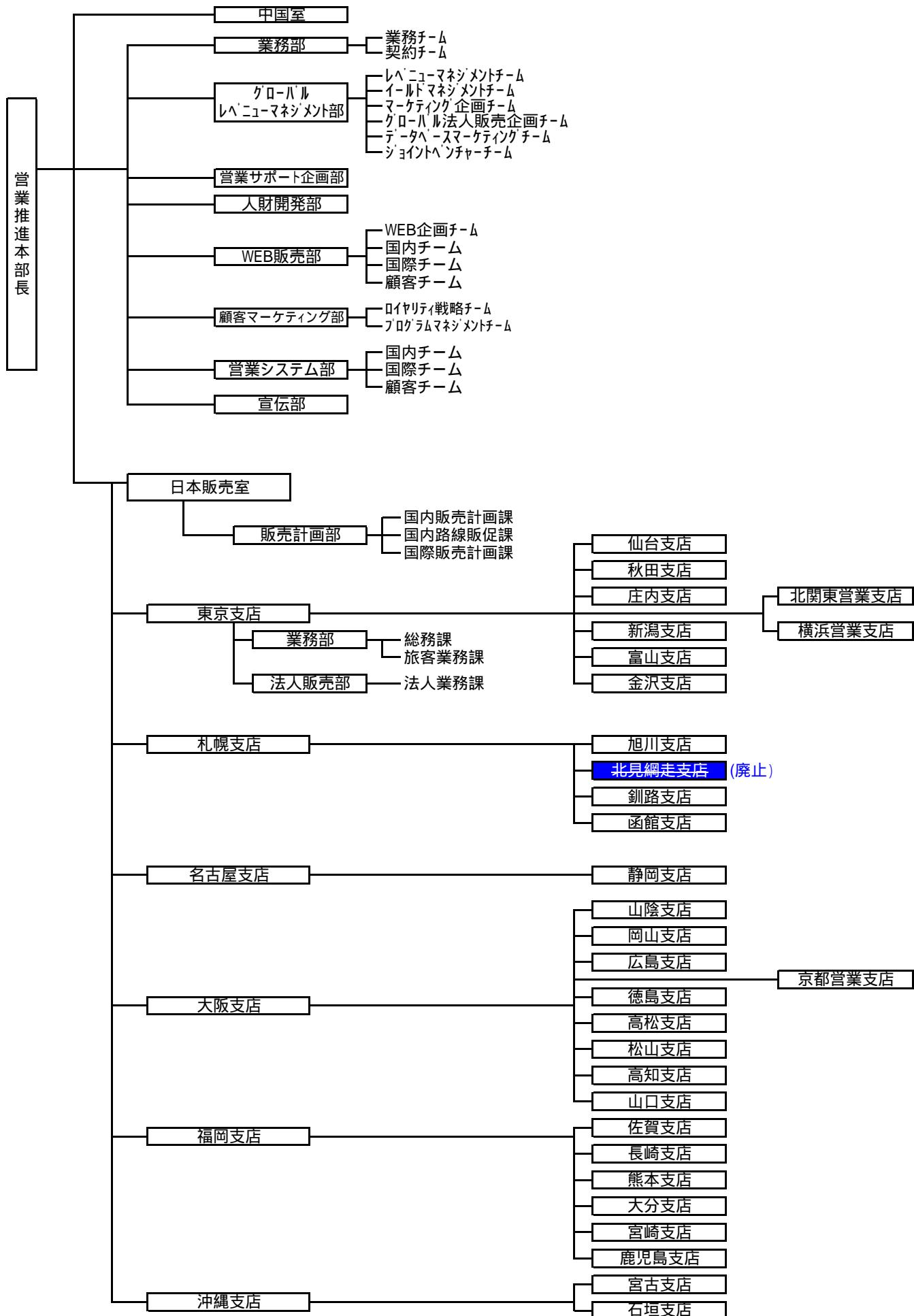
平成 23年 4月 1日

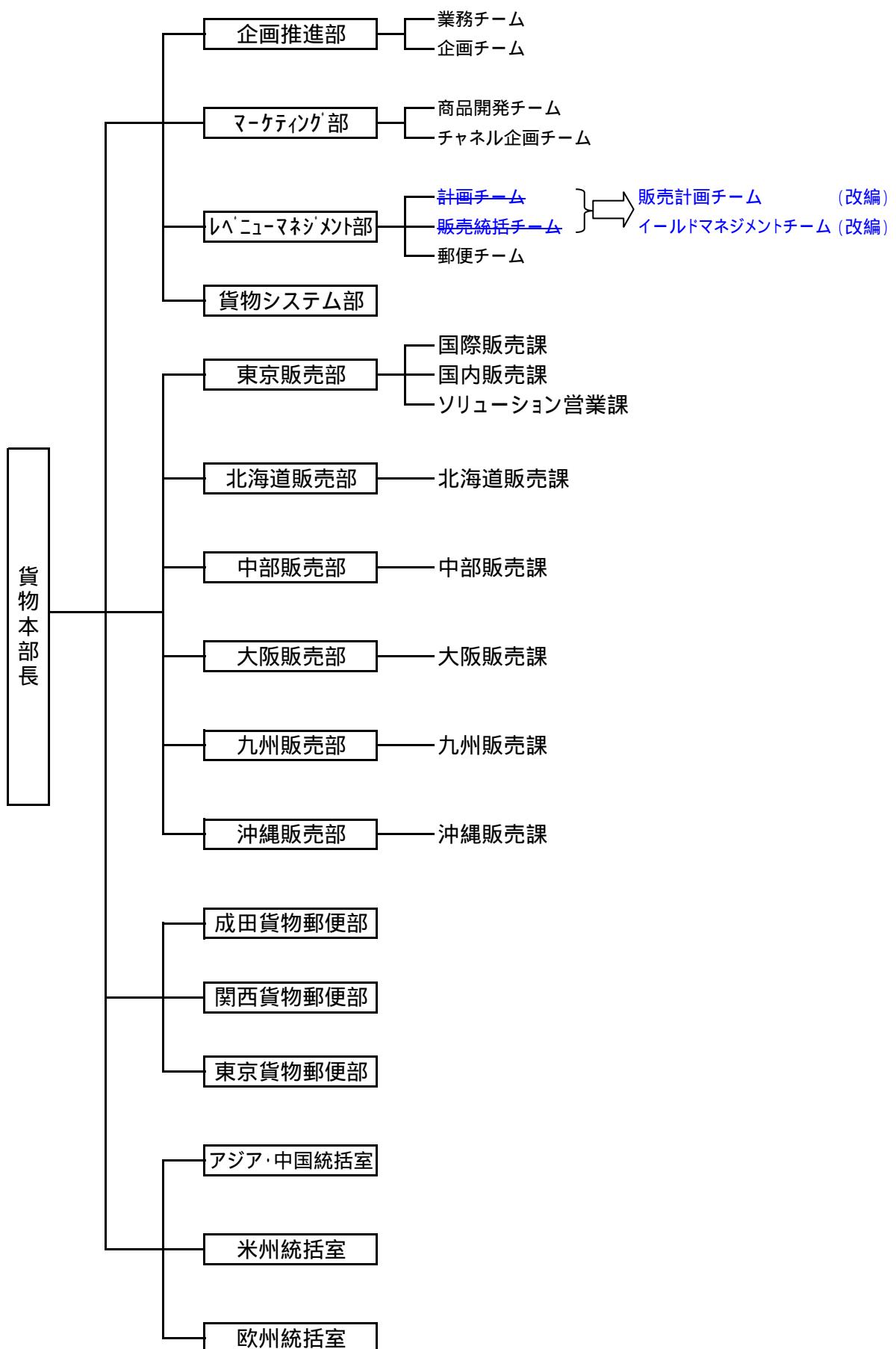
3. 組織図

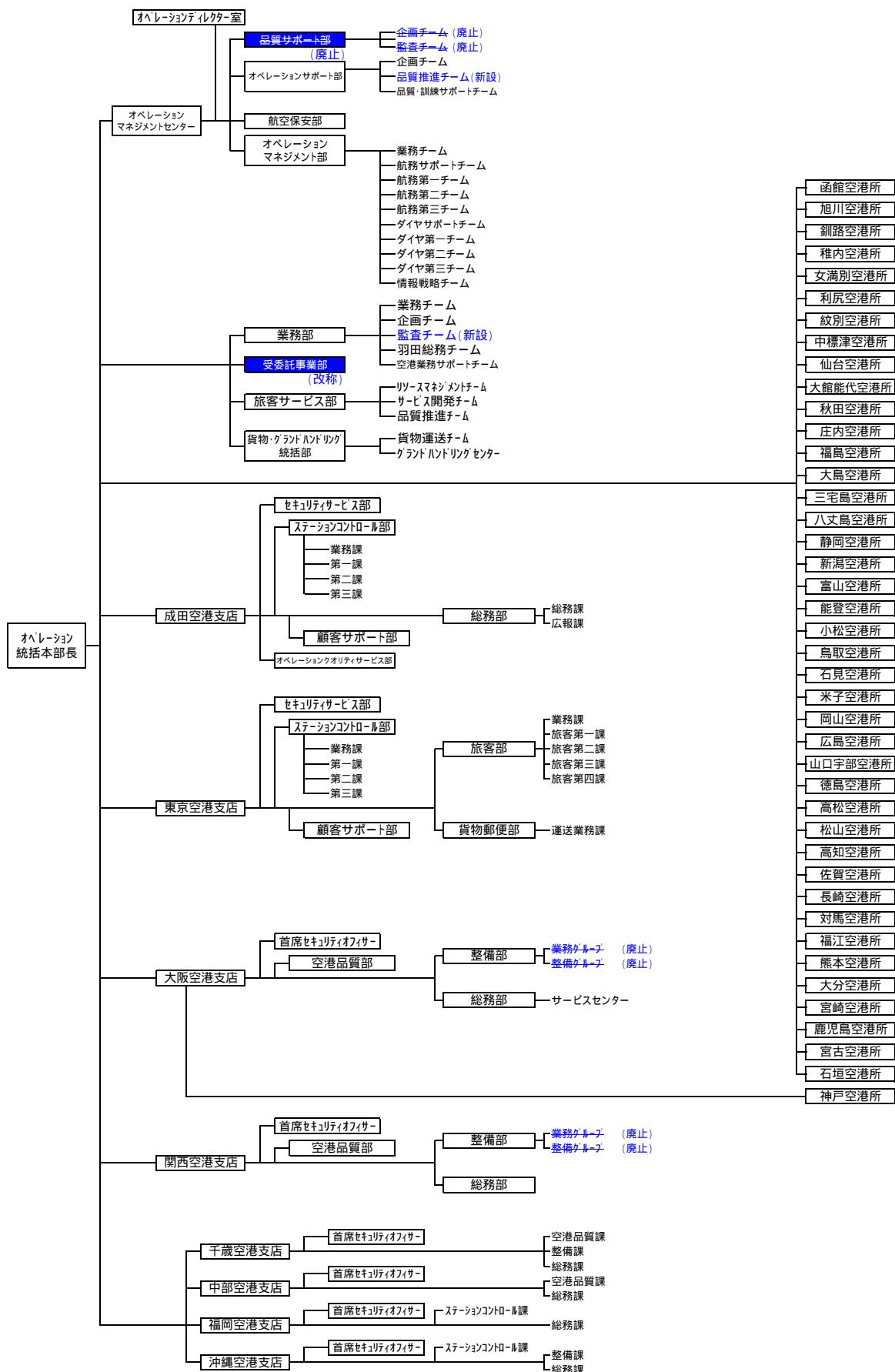
別添1~7参照

以 上









- 函館空港所
- 旭川空港所
- 釧路空港所
- 稚内空港所
- 女満別空港所
- 利尻空港所
- 紋別空港所
- 中標津空港所
- 仙台空港所
- 大館能代空港所
- 秋田空港所
- 庄内空港所
- 福島空港所
- 大島空港所
- 三宅島空港所
- 八丈島空港所
- 静岡空港所
- 新潟空港所
- 富山空港所
- 能登空港所
- 小松空港所
- 鳥取空港所
- 石見空港所
- 米子空港所
- 岡山空港所
- 広島空港所
- 山口宇部空港所
- 徳島空港所
- 高松空港所
- 松山空港所
- 高知空港所
- 佐賀空港所
- 長崎空港所
- 対馬空港所
- 福江空港所
- 熊本空港所
- 大分空港所
- 宮崎空港所
- 鹿児島空港所
- 宮古空港所
- 石垣空港所
- 神戸空港所

オペレーション統括本部長

